



昨今の「ゴミ問題」について

干支が一回りしてしまったので随分と古い話となるが、以前、長期間にわたって産業廃棄物を不当投棄した結果、札幌市清田区に「ゴミロード」または「ゴミ回廊」と呼ばれる場所ができていた。もちろん、「ゴミロード」はある男性によって時間とかけて意図的に作出された不要な空間であった。その後、その男性は、使用済自動車の再資源化などに関する法律違反で起訴され、私はたまたまこの事件の国選刑事弁護人となつた。被告人の生活歴や犯行動機などをできる限り深く考え、それと関連する事項として、付近の環境破壊や地域住民が持つ不安感(とても治安が悪い環境であつた)などを考えてはみたが、「ゴミ問題」と絡めて弁護活動をすることは一切なかつた。その後も、最近、このコラムにマイクロプラスチックごみについて書き綴つたくらいであつたが、先日、「ゴミ清掃員の日常」(原作・滝沢秀一)というマンガが出版されているのを知り、あらためてゴミ問題を少し考えてみようと思つた次第である。

ゴミ問題は多岐に及ぶ。不法投棄から始まり、「ゴミ焼却によるダイオキシンの発生を防止する新たな焼却炉の設置や最終処分場を巡る地域住民の反対運動、リサイクル可能な古紙や金属スクラップを中心とした産業廃棄物の輸出入規制(バーゼル条約)。最近では、度重なる台風や地震などにより発生した災害廃棄物の処理問題、さらに、レジ袋の削減や紙ストローの普及活動など、枚挙にいとまがない状況である。

さて、「ゴミを減らすための環境行動を表すキー「ワードとして「3R」という言葉がある(減らすという意味でのReduce、繰り返し使うといふ意味でのReuse、資源化するという意味でのRecycle)。私たちが居住する札幌市では、「減らす」

という意味での「Reduse」の取り組みとして、事業ゴミ(家庭ゴミ、年齢の札幌市における「ゴミ」)排出量は、札幌ドーム約3個分に当たる約60万トン前後で推移しているが、この排出量は全国の政令都市20都市の中では、横浜市、川崎市、名古屋市に次いで4番目に少ない(平成27年度)数量であり、おいに評価されてよいであろう。

私たちの身の回りには地球上に限られた資源(石油、金属)をもつておらず、資源を有効利用するための「リユース」が、いつまでも続いている。詳しくは札幌市のホームページから検索できるが、要するに、まさに、私たちは、これらの製品に1